

主な記事

沖縄の現況について.....	1
ブラジル便り(2).....	2
卒業論文抄録.....	3
サロン.....	5
会員の近況.....	8

千曲會報

昭和33年3月1日発行

長野県上田市常入
信州大学繊維学部内
編集兼発行人 小山長雄

信州大学繊維学部内
発行所 社団法人千曲会

昭和31年6月18日第3種郵便物認可 毎月1日発行 定価1部15円

沖縄の現況について

沖縄鶏肉処理 株式会社専務 緑 間 武 (糸35)

祖国日本より戦争の為に行政、司法、立法とも切り離された琉球(沖縄県)は琉球政府という政治形態を整え独立国の様相を呈しているが実際は講和条約第3条により米国の支配下におかれ、米国より派遣の高等弁務官が行政を施行しており、琉球政府の上に米国民政府というのがあり、琉球政府(もと沖縄政府)は実質的には単独に動きがとれないようになっておる。それで日本の新聞紙上には日本復帰を全住民が希望しているように伝えられているが、一昨年(56年7月)帰郷し1年半沖縄の表裏を静かに眺め乍ら事業を進めている中に周囲の空気も充分理解できるようになった昨今、これはあやまりである事がわかつた。

日本では淵上、高岡議員団の米軍首脳への沖縄返還陳情、更に早稲田大学大浜総長等在京六大学総長の岸首相への沖縄復帰陳情問題が噂されているが沖縄全住民がこれを心の底から希望しているのであるか? 且又実現できると思つているのであるか、常識ある冷静な知識人は紙上の空論だとしか考えない。

日本本土に見られない道路、港湾、施設、軍事基地を眺め且自己の立場を静かに考慮した時に現状のままを希望するのであろう。もし現在かりに今すぐ日本復帰した際先ず真先に沖縄の公務員と工商人に大混乱を招くであろうと云われている。即ち裁判所の判事、検事で日本での司法試験合格者で資格を持つている人は少いし、高校(26校)の職員大部分は無資格者であり、中学校小学校しかりであり、戦前同様8割迄が日本本土から来島する事を考えると、心の底では早期日本復帰を希望しない声も伺われる。更に工業面では日本米國製品との競争から守る為5~10%の関税をしき保護策を考慮している。今すぐ日本商品が無税で入つてきたら味噌醤油工業しか成り立たないと信ずる。

更に人材の問題が考えられる。日本の会社での社長専務は50才台以后が多いが、沖縄では30才台の社長専務も少くないから会社経営に経験が少い。従つて日本商社及び日本製品と競争したら決して勝てる筈がないからである。

次に教育面であるが、沖縄島の生活面及び所得の増えた事の実例として、日米留學生の数から判断できよう。私達が上田在学中に於ける沖縄出身日本在學生は340名前後でした。筆者郷里の勝連村でも医専の友人と2人で村から1ヶ月学資の1/3の補助を買つてた程であつた。戦後は留學が容易にな

り沖縄出身の學生は日本の大學に現在2,700~2,800名、米國200余名と10倍以上になつておるし、私の村でも戦后新制大學卒は10数名、在學生は40名に達している。更に戦前は1人でも学資を漸くと云う家庭が最近では兄弟2~3人を日本に留學させている家庭が少なくない。私の家庭も3男名城大機械科、4男愛知大大学院法学専攻に勉學させ、今春更に末妹を留學させる事になつてゐるが、戦前の經濟だつたら到底望めない話であつたらう。

右の事からして眞の心の底から米國支配をきらつてゐる事はあり得ないと思ふ。唯人間の心理論から13ヶ年間も母國から切り離されてゐるので母もどへ歸りたい子供もいるのと同じで兄弟全部挙つて今すぐ母親の所に行きたいという人ばかりではない。

去る12月23日沖縄島中部の胡差市(人口6万)で日本復帰促進大演説會が開かれようとしたが中部市民の大反對に会いパレードをはりめぐらせ演説會は不可能に陥つた。私も基地經濟に依存しない純日本向け大理石(新丸ビル内層全部八重州口六角柱全部をはつてある大理石)採掘業を持つている中に沖縄住民の要望及び軍の要請もあつて愛知県碧海郡でおぼえた養鶏業を計画し米軍に鶏肉鶏卵の納入をなす会社を設立して日夜其の經營に繁忙を極めておりますが、その最中畜糸人としての誇りを1日たりとも忘れた事はない。

米軍の高官はそう言明した「沖縄人は移民移民と云うが沖縄の土地、氣候に恵まれた養蚕業があるではないか、もう少しこれを具体化してやれば100~1,000名の仕事はできるではないか先ず眞剣に実現すべきであると」と指針した。

それを聞いた沖縄財界人は何が何んだかわからない中にも熱心に考へて呉れる偉大な人がいる事には畜糸同志人として有難い事であつた。さすがの銀行家であり沖縄財界を左右する沖縄相互銀行常務取締役伊波興光氏(中央大卒)は實現できない事はないと確信し、1957年5月長野県の母校及び長野県庁を視察され益々確信を持ち帰郷、その間長野県よりの視察團の來島を實現すべく奔走、漸く受入れ準備を整へ本人が身元引受人となるから視察團一行のメンバーを早急に知らせて貰いたいとの事で母校青沼先生に連絡して御骨折を御願ひした次第であります。筆者は昨年11月鹿児島大の視察團の養蚕指摘の意向も無にする事もできないので信大の母校の教官も長野県視察團の一行に加つて戴きたい事を力説してお

ります。

沖縄の経済は戦後13年にして漸く安定し、生産企業の復興を第一の目標としており、昨年名古屋の中部衣料株式会社との合併会社が設立され沖縄繊維株式会社と名づけられ、日本側3,000万円沖縄側2,000万円合計(B5,000万円)の会社が設立され4,000坪に小規模な紡織工場が設立されました。これは沖縄ではじめての外資導入に依る紡織工場であるが第二次計画として30,000坪が既に敷地に決定されている。蚕糸同志人の伊波常務の構想は長野県群馬県又は上田同窓の蚕糸人とタイアップして単独か又は合併会社を設立し一つの整った蚕種会社、製糸会社、織物工場を設立、それにより就業に困っている沖縄の住民の1人でも多く失業者が吸収されるればよいとの考えである。

沖縄相互銀行の伊波常務と云えば沖縄財界人で知らぬ人はない逸話がある。沖縄タイムス社(沖縄最大の新聞社)ビル(2,000坪)が米軍の車を卒直にかきたたてた琉球銀行よりの融資拒否に会い(琉球銀行は米国51%沖縄49%の合併会社)困っていた所タイムス高嶺社長の正義感に同情し沖縄文化の為にB2,500万円(日円7,500万円)の金を貸付け中断していたタイムスビルを完成させた事は有名な話である。兎角沖縄の住民は或る偉い実業家の為には協力を惜しまぬ従順性がある。沖縄は戦前の品種しかない為に12匁~13.5匁しかとれない戦前の解舒糸長300mしかない繭だけしかつくられていなかった。所が昨年沖縄の5釜経営の私の友人が日本からの品種を輸入して飼育させた所日本の繭同様17匁、解舒糸長800m単織度3.2dの繭がとれて大悦びした事からして農家も品種が悪いので飼育条件が悪いとは思わなくなっている。師走の忙しい中を伊波沖縄相互常務は沖縄一番の養蚕地帯ユメ島に飛び養蚕農家の希望を調査した所養蚕農家の喜びは一通りでなかつたとの事である。

沖縄島は米軍基地の恩恵をうけているが周辺に散らばっている多数の島は養蚕業が具体化すればいかなる換金作物より

優るとの事であるが今の所僥福の指導者がいない事がガンである。同窓の先輩で海外雄飛の御女侍の方は是非今度の視察団に加入され沖縄を一つとした大きな蚕糸公社を合併で設立して其他沖縄の好環境を利用し入りかわり立ちかわりする米人の土産品の為のシルクセンターをも併せて設立して(現胡差市の100軒以上の土産品店でイヴエングドレス・ネッカチーフが大量に売れている)直売店と共に設立する事に依り軍人軍属の入りかわり立ちかわりの折の土産品の売上高は莫大なものとされている。特に何万と云われる米人は本国への送り物には必ず土産品店で売っているイヴエングドレスに沖縄独特の絵を染色させて記念に持ちかえり且本国の知人、友人に送っている。例の三重県のミキモトの真珠センターが私の鶏肉会社の隣りに100坪のミキモトパールセンターを設立しているが土曜日曜には高級車が40~50台ならぶ事がある。且私の鶏肉会社のすぐ隣向いは沖縄最大の店プラザハウスと云う店であるが普通に米婦人が50~60台、土、日曜は300台をこす事があり駐車場の関係で遠い所に駐車して歩いて来る米人もいる位であるから彼等は米国にいるよりゼイタクであるだけに高級品に対する欲望は尚更である。以上簡単に沖縄の現況をありのまま卒直にのべましたが沖縄の千曲会は会員4名で他の3名は何れも一流の実業界に進出特に瀬貞孝氏はバス200台を持つ昭和産業株式会社の専務として且オリオン系映画会社の重役として仲々面会ができない位に多忙である。尙宮城薫氏は沖縄一のセメント瓦ブロック工場を持ち他に数会社を持ちすごい泉意気である。内間仁三氏はサルベージ業を経営してユウユウ自適の地盤をきずいているので上田出身程揃つて実業界に進出した同窓は少ない。されど上田同窓にかぎらず戦後の知識人は戦後の波に乗り米軍の恩恵を被っている唯一の証拠であろう。それだけに産業面における経営技術の劣悪等を考慮した時これからは日琉合併会社の設立がポツポツできるであろう。何卒同窓各位の南方雄飛を期待します。

ブラジル 便り (2)

谷 内 利 男

このブラ拓の総元締とも云える人は諏訪市出身で南米銀行重役の宮坂国人氏で過去天皇陛下にブラジル事情をお話し申し上げた人ですが、ブラジルコロニア(ブラジルの邦人、二世三世も含む総称)切つての名士でもあります。製糸の支配人は天野賢治氏と云い元片倉のニューヨーク支店に上田出身の馬場、有賀の御兩人と共に勤めておられた人で、よく御兩氏の噂話を致します。バスター市場長は京都高蚕出身の谷口氏ですが天野氏も谷口氏も非常に良い人ですので工場内は資本主義的な臭いは少しも感じられず大変住みよい工場です。

自動機は昨年7月試運転の運びとなりましたが、日本国内と異り職人はおらず少々苦しみました。ブラジル人は非常に呑気で全て明日(アマニアン)又すればよいと云つた調子で機械の据付過程にもこのアマニアン主義には悩まされました。繭質も余りよくなく(想像していたより良繭が産出されま

す)その他いろいろと問題があり機械の性能が充分發揮出来るかどうか関係者一同心配でしたがどうにか順調に行き240条1セット4人で8~12キロの能率を得ております。何しろ今まで基礎調査など一度も行つたこともなく、生糸検査制度もなく、製造された生糸が直に業者へ売り渡されて行くのですから日本のそれと比べるとお話になりません。それだけに自動機を扱う女工さんの訓練には少々苦しみました。女工さんは皆二世ですので日本語を喋ることは出来ませんが書いたり読んだりほとんど出来ず、少しむずかしい日本語になると意味が通じません。それで機械の部分的名称などいまだに覚えていない位です。ときどき機械が故障を起し、例えば接続器の廻らない時など「オジサンあの黒いのが動かない」と云つた調子です。ブラジルへ来て二世たちが我々を呼ぶときは必ず「オジサン」ときますので最初馴れない間は変でしたが

最近はずつかり馴れました。会社の女工さんは一応私に敬意を表する意味で谷内さんと呼びますが機械の突発的故障などで慌てると前記の通りです。ブラジル語(御存知の通りポルトガル語のブラジル化したものでポルツゲーズと云います)は皆違者で悪口を云われても解りませんので仕末が悪い訳でもあります。養蚕は年間を通じて飼育出来気候は湿度が少く過し良い所です。蚕の発育も良好ですが飼育温度を第一とし全てに驚くほど粗雑ですから養蚕教師の江原氏(京都高蚕出身、伊藤学部長先生の教え子、私より3ヶ月前渡伯)も苦しんでおります。蚕種は州蚕糸局のもの外に日115×支108, 秋峯×明月, 春月×宝鐘, 日112×支122, 日122×支115, 大平×長安等がありますが、退化、病蚕でブラジルの感覚対日本の感覚の争いを江原氏はときどき惹起している様子です。農業も最近ブラジル式農業に対する科学的農法が新移民によつて叫ばれ、新旧の対立があると同様に旧移民、新移民の世代の相異がいろいろな形で問題を起すことが多くあります。煮繭機も座繰用に用いられていたものでは仕方ありませんので乏しい頭をしぼつて設計製作しましたが解舒糸長は500~600m位です。厳密な試験機や基礎調査など必要のない大まかな繰糸を行つておりますが少しづつでも日本的な細い管理技術を取り入れたいと願つております。

蚕種業では山梨出身の橋本氏がバストスで大成功しマタローゾ(ブラジルの大財閥)からの援助もうけ手広くやつており、蚕種業は日本人のお家芸と云つた感が強くいたします。最近日本からも鐘紡、その他の繊維、鉄工等の企業が進出し、発展期にあるブラジルはいよいよ活気を呈している様子ですが、未開地だけに中間的存在はなく、乗物にしても市街地を乗馬やシャロット(馬車)が我物顔に活歩しているかと思うと、空のタタシーと呼ばれるテコテコなる23人乗りの飛行機が気軽に発着し、英国資本とかの広軌道快速列車が走つているかと思うと、薪を燃して鐘をカランカラン、ガス燈を

つけた御粗末な客車が“オイ、待つてくれ”と云えば止まりそんな様子をして悠々と動いていたりで発展途上にある過渡期的珍現象が方々で見受けられます。

生活程度はブラ拓製糸の例をとつてみますと現在このバストス地区は最低給料が3コント200(1万5千円強)でほとんどの家庭が一家総出で勤めておりますので、案外楽な生活が出来の様です。贅沢は際限なく出来ませんが娯楽機関の少い田舎町ですから食費は極めて安く上り、大方の家庭が電気冷蔵庫、ガス炉と備えられ、ライカ、コンタックス、ローライと持てるのは、日本の下級勤人と異り恵まれてる訳です(女工さんは男子よりあらゆる点で優遇されております)。

ブラジルの蚕糸業も生糸輸入に対する保護政策を取つており、ブラ拓でも一昨年群馬の日本絹織の企業移民団を吸収し、目下更に繰糸機の増設中で自動機の早急増設は見合せておりますが遠からず設置する予定を立てておりますし、蚕糸局でも養蚕移民の導入には力を注いで、先頃も養蚕製糸の各代表を招いて新しい発展的対策を練るなどの点からみましても今後相当に伸びるのではないかと思います。

私も契約の半分を夢の様に過ぎてしまいました。果して契約期間の3年で帰れるかどうか解りませんが、今後何かと御教示の程をお願い申し上げますが多々ございますと存じますが何卒よろしくお願い申し上げます。

まだまだいろいろと便り致したいことが沢山ありますが冗長な拙文で欠伸をお誘い申し上げますばかりですので今日はこの辺で失礼致しとう存じます。いずれ後便にて当地での珍らしい写真なども御送附申し上げたい所存でございます。

では、はるかブラジルの地より諸先生はじめ皆様様のいよいよ御壮健で御発展の程を心より祈らせていただき御無沙汰のお詫びかたがた近況のお知らせまでに閉筆致します。

(1957. 9. 9.)

— 大学第6回卒業生 —

卒業論文抄録

蚕児の血液及び消化液内酵素作用に関する研究

- I 稚蚕用桑の熟度とその蒸桑給与に因る血液及び消化液内 Amylase, Protease, Deaminase, 並びに Lipase 作用の消長について
- II 蚕児血液及び消化液内 Amylase 並びに Protease 作用に対する Vitamin C 及び重磷酸 Magnesium の影響について

養蚕学科 蒲生研究室 宮坂弘子

(I)報に於ては軟桑、中桑、硬桑の各々の蒸桑(55°C10分間)と普通桑とを稚蚕期に給与し、3令盛蚕から熟蚕に至る

まで蚕児の血液と消化液内に於ける各酵素作用の消長を比較研究した。

(1) 桑葉中の各酵素量：各酵素とも桑葉の熟度を増すにつれ増量し特に蒸桑の場合に著しい。

(2) 血液中の各酵素量：蚕児の発育に伴つて Amylase, Protease は減量し Deaminase, Lipase では増量する。桑葉の熟度については普通桑では中桑、蒸桑では硬桑を給与した場合に各酵素量が多かつた。普通桑と蒸桑を比較すると、軟、中桑では一定の傾向はないが硬桑では蒸桑の方が各酵素とも多かつた。

(3) 消化液中の各酵素量：蚕児の発育に伴つて各酵素とも増量する。桑葉の熟度及び普通桑と蒸桑を比較した場合は血液の場合と全く同じであつた。

(4) 本実験の結果、壯蚕期の蚕児の血液及び消化液内各種酵素作用は稚蚕期に給与された桑葉の熟度に因り、又はその蒸桑給与により著しく影響せられ、概して4酵素とも稚蚕期に中葉の普通桑又は硬葉の蒸桑を給与した場合に酵素量比較的多く、飼育成績も良好であつた。

(Ⅱ)報に於ては血液及び消化液内 Amylase, Protease 作用に対し Vitamin C 及び $Mg H_4 (PO_4)_2$ は賦活作用が強く特に Amylase に対しては V.C が Protease に対しては Mg が強い補酵素作用が認められた。

尚本実験は(第Ⅰ報)は1957年11月日本蚕糸学会中部支部研究発表会(於上田)で、又(第Ⅱ報)は1958年4月日本蚕糸学会研究発表会(於東京)で浦生俊興、西山久雄、宮坂弘子により既に発表をしてある。

空気粘度を利用した湿度計について

製糸学科 白井研究室 高木高男

工業的乾燥機用湿度計特に高温低湿度に於ける計測器として長時連続使用に耐えるものは少い。それは精度、保守及び複雑性、価格の点に難があるためである。乾燥用空気の比重の変化を利用したもの、湿球冷却用水の代りに塩類の飽和溶液を用いるもの等がある。著者は湿度の相違に依つて生ずる空気粘度の変化から湿度を計測することを試みた。装置は粘度利用に依る工業的ガス分析装置即ち粘性流出橋を流用した。比較用標準ガスは普通の大気を用いた。静圧指示液は水とした。

実験に依ると温度の影響が多いので被検空気と比較用空気との温度差を無くす装置を附加する方が実用的である。この際粘性流出橋の動作能力を妨げてはいけないので工夫が必要である。しかし乍ら絶対湿度の変化は自作した稍不完全と思われる装置でも明かに静圧差として計測し得る。例えば $80^{\circ}C$ に於て湿球示度差 $15^{\circ}C$ に対し静圧差 $20mm H_2O$ を得た。今後実用化の研究を進めることに依り計器となし得るものと考えらる。

ナイロン燃糸の匍匐現象について

(水中におけるナイロン燃糸の匍匐特性の
方程式化への考察)

紡織学科 古里研究室

白石重昭
藪田雄巳

研究目的

水中におけるナイロン燃糸に一定の荷重を加え、その匍匐現象を実験的に究明しようと試みた。即ちナイロン燃糸の匍匐伸びが温度及び燃によつてどのように影響されるかを考察し、各種のナイロン燃糸の特性を方程式に表わすことを目的とした。

研究結果

1 一定状態で一定引張荷重による、或る経過時間迄の総伸び ϵ は、引張応力に比例し弾性係数に逆比例する「荷重瞬間の伸び ϵ_0 」、荷重曲線の第一次降伏部の伸びに相当し、Voigts model に相似的に生ずる「緩和伸び ϵ_r 」及び荷重時間 t の対数に比例する、即ち伸び速度が荷重時間に逆比例する「匍匐伸び ϵ_c 」の3種から成る。

$$\epsilon = \epsilon_0 + \epsilon_r + \epsilon_c \quad \epsilon_c = A \log_{10} t$$

2 ナイロン燃糸が単繊維の場合と異なる点は、これらの現象において、引張応力の影響が極めて複雑で、一般に、相当に広い引張応力の範囲で、応力に無関係で一定であるべき匍匐第二係数が、応力の度合に応じて複雑に変動する。又、瞬間弾性伸びと緩和伸びの和が匍匐伸びに比して極めて大である。

3 同一荷重、同一温度では、単位長当りの燃数が多くなる程伸びでは大きく、又、匍匐速度も大きい。

4 同一荷重、同一燃では、温度が高い程伸びは大きく、匍匐速度も大である。

5 同一燃、同一温度では1den 当りの荷重が大きい程伸びは大きく、又、匍匐速度も大きい。

高分子皮膜の油および非イオン界面活性剤水溶液に対する選択湿潤に関する研究

繊維化学 黒岩研究室 岡本 功

γ_{so} および γ_{sw} をそれぞれ固体と油および固体と水との間の界面張力、また $[\gamma_{so}]$ および $[\gamma_{sw}]$ をそれぞれ水中で新たにできた固体—油間の界面張力および油中で新たにできた固体—水間の界面張力とすると、

$$\gamma_{so} - \gamma_{sw} + [\gamma_{so}] - [\gamma_{sw}] = w\gamma_0 (\cos\alpha - \cos\beta)$$
 は水と油が同時にあるとき、固体表面がそのいずれによつて優先的にぬれ易いかを示す指標となる。但し α は水滴がある固体に対し油中で示す接触角、 β は油滴が同一固体に対し水中で示す接触角であり、また $w\gamma_0$ は水と油との間の界面張力である。これを選択湿潤張力とよぶことにする(黒岩, 三石, 呉, 工化 58, 867(1955); 黒岩, 工化 61, 271(1958))。

本研究はこれを用いて、水の代りに2・3の非イオン界面活性剤水溶液をとり、その親水基としてのポリエチレンオキサライド鎖の重合度が、各種高分子皮膜の油および活性剤水溶液に対する選択湿潤性に如何なる効果をもたらすかを検討した。研究の結果、高分子皮膜の選択湿潤性は、界面活性剤を用いることにより一変し、一般に水より油によつてのみ優先的にぬれ易かつたものが、かえつて水溶液の方により優先的にぬれ易くなり、その効果はポリエチレンオキサライド鎖の重合度の大なるもの程顕著であつた。又疎水基に対し速度のポリエチレンオキサライド重合度を有する界面活性剤を用いると(例えば1ニルフェニルに対し、重合度約8)一般に高分子皮膜の選択湿潤張力は0に近づき、皮膜は油と活性剤水溶液の両方にぬれるようになる。

Senji Kuma SALOON

思い出の寄生木

静岡 十九楽吐月峰

第1篇 60年の不作

○——(4)「無味無臭の幼少年期」坊ちやの八雄は花の盛り4月某日某時遠州海辺から程遠からぬ菩提山と云う今から1300~1400年前平安朝時代にある落人の住居したと云う山の中の一軒家に孤々の声を上げた。それは日清戦争と云う明治中葉日本帝国が挙国一致の国力をあげて戦った大偉業の結果清国を敗かした年だから明治28年の春であつた筈だ。この様に生年月日の某月某日は坊ちやの知る由もない事で6~7年後親達や周囲の人々から聞かされた事柄で殊に小守のお梅の後日物語として繰り返し繰り返し教えてくれた。

戦地から勝つた勝つたの報告で内地は号外の鈴の音で有頂天、神社へは信神詣りの列で大騒ぎ、その最中に男の子が産れたとて一家大喜びであつた。

とよくお梅は坊ちやの八雄に説明するのであつた。

坊ちやの家は数年前の明治23年頃この山の中の開拓地へ移り住んだ一家だが何でも旧幕時代まで2里も北方の石野と云う部落で庄屋を勤めていた家柄で、祖父に当たる人の失敗で田畑を売り放つてこの山の中に入り、開こんして桑を植え古家を持つて来て蚕室にして信州の塩尻から藤本の蚕種を入れて養蚕を初めたのが起りだそう。小供心に教えられた話ではだんだん蚕種を作つて種子屋になつたのだそうだが六ヶしい事はよく呑み込めなかつた。

尤も庄屋と云うと昔の頃ではまんざらの水呑百姓ではなかつたらしいが、その2代前の頃家人には掛川の遊廊の女郎と裏の川で情死心中をした者や旅役者と恋の道行をしたものもあつたとかで、大した家系ではなかつた訳だ。だが幼少の坊ちやには心中と道行も何の事かトント判らずに聞き流していたが10才位になつてこれはよくないボケ野郎だなと感付いた。そのためかお梅はよく

坊ちやは大きくなつて

女遊びや道行はいかん

と囁んで含めるように訓されたので「ウン」と答えて一生聖人で過ごそうと決心した。

坊ちやの親達新兵衛夫婦は「律義者の子沢山」と云うか多産系で兄弟姉妹10人もあつて、坊ちやは姉2人の次ぎの長男に生れたので一生は宿命の「惣領の甚六」の纏にしばられ生涯の運命は生れると同時に定められたと云うのであろう。

一軒家の山の奥の生活は無味乾燥そのもので2人か3人の兄妹共年中明け暮れ近所の川原や原野で遊ぶ外なく、ふかしたお芋を手拭の両端に包み首にぶらさげて、「おやつ」にだまされて遊ぶのが日課であつたらう。聞く声は朝の鳥の泣声、目白、ほおじろ、などの小鳥、夕方のヒグラシ、等々、人の訪う姿も少く山家育ち、「孝女白菊」に似た悪童山男と云つた所である。

たまには汽車の停車場へ1里か2里出掛けて汽車を見たり駄菓子を食べたり3度に1度は賑やかな静岡や浜松見物に汽車に乗せて貰つて嬉しかつた事もあつた。

坊ちやはこの様に毒にも薬にもならぬ無味無臭の幼年時代を過ぎて7才を迎えて困つた事態に直面した。それは小学校入学問題であつたのだ。

○——(4)「寄生木の初歩始まる」

小学校へ2里もあつては7才の小供では歩いて通えない、そこで親父新兵衛の実家の淡ヶ岳村初馬の坊ちやの祖父母の宅へ預けられる事になつた。居候生活つまり寄生木の小主人公になつた。

某月某日、春3月の末母親いく代は父新兵衛の内命とて着物を着換えながら

坊ちやは拾得だからオカアチヤの云う事をよくきくのだよ

坊ちやは急な話だから

それは何のことだネ、何処かへ連れていくのならいやだ

そこで母親は座つてから

坊ちやは学問をして立派な人になるため、ここには学校がないから一そのこと、お父さんの実家初馬へ行つていて、そこの学校へ入るのだといろいろこんこん説明した様に想う。

傍らにいたお梅も又口を出して

坊ちやはばかりでない、姉サン2人も

学校へ入る年になると初馬や掛川へ預けられて通学したでしょう。

とジュンジュンと論じてくれた。

坊ちやもどうも仕方がないとわあきらめたがオ母サンやお梅に別れるのが辛かつた。

今日は今から初馬に伴れて行くと説得されつつ母は語を次いで

掛川で何でも好きな物を買つてやる

から行きましよう。

とうまく口車に乗つてそろつた飛白の木綿に山桐の下駄と小さい風呂敷包みを持つて3里の道を歩いて母と2人で初馬へ出掛けた。

行つて見ると寄生木の初馬の家は老人

2人伯父母病人2人下男下女2人馬と猫2匹の家族であつた。

翌朝知らぬ間に伴れて来た母親は帰つたものか何処にも見当らず急に淋しい思いが一杯こみ上げて来た。母を離れて第1日の感想は母恋し、母有り難しの心証であらう。

この初馬での小型寄生木の居候生活はこの日から4ヶ年続いたのだがどうもつらつら思うに他人の飯の味は一種異様のもので経験のない人には判らぬものだと思う。

矢張り他人の飯は食わずべきか、可愛い子には旅をさせよとはこれだなと思ひ出の寄生木の感想は右の通りである。

初めの内は夜は祖父と一緒に寝るのだったがよく寝小便を垂らして叱られて、祖母に

小便ふとんを背負つてボダイへお帰り

とおどかされたが何も悪気で祖父を流してやろうと云うつもりはない。叱る方が無理だと子供心に感じた。おかあちややお梅ならこんなに口汚なく叱るまいのにとこの時もよく母恋し家恋しお梅なつかしの涙も出た。子供心を傷心さすのは躰け上よくない。子供は生みの親に限ると八雄は後年8人の子女を持つたが3度の飯を2度に分け合つても一家全員生活が人生の幸福と自ら教訓を生かした。人の子は人の親になつて判る親心かな。病人2人の存在も辛らかつた、胸を病む伯父母は何につけ小言を聞かす。尤も八雄もよいばかりとは云えぬ隣室の押入にある買置きのセンペイを盗み出す骨の折れること。感付かれて

今日は3度目だから今は取り上げ

だ

と巻き上げられ没取される。ションボリ遊びに出る、隣りと向いに悪友亀公と万公の幼友達は何よりの遊び相手でも何でも乃公の言う事を聞いてくれる。犬馬の勞を取つてくれるのは愉快千万、水遊びでも山遊びでも常に桃太郎に従う。きじや犬の役目を果してくる家来で、水火の勞と雖もいとわぬ我が手下であつた。尤もこの亀公学校の教室で大便を洩して泣き泣き我が家に帰つた時などは八雄は友人のよしみで送つて行つて謝まつてやつて家来の味方になつてやつた。

○——(4)「薬瓶に水を入れ替える。」病人2人の薬取りに行くのは坊ちやの役目であつた。淡ヶ岳村の隣り村の田中医院が親類でここに遊び連れが沢山いて行くのは辛らくはなかつた。

帰り道に悪友と川遊びに夢中になつて果ては薬瓶を転ろがして、こぼした時など川の水を入れて帰つてからパレテ大目玉を頂戴「病人をいじめるか」と直立不動1時間はまるで兵隊の重営倉の様でコ(6頁へつづく)

須田圭二先生

坂口育三



頭の禿げた小柄の体軀、時々咽喉を鳴らして歩かれる静かな人、それが須田圭二先生の懐しい風貌である。学内ではほとんど白衣を纏い、常に地味な紺の洋服を着ておられた。戦後は鳥打帽を冠り、時には中学生のような肩掛けのカバンを掛けて出勤された。

ハブ茶と言うお茶を教えていただいたことを覚えている。昭和10年頃の想い出である。肥料試験葉園の片隅にハブ草を栽培し、これからとつた豆を炒つてお茶にして飲むのである。胃によいとか、体によいとかのお話で当時先生はずつとこのハブ茶を嗜まれていた。

先生は川瀬、古谷両先生のあとを次いで土壌や葉の分析で多くの地味な業績を残された。今これらの業績を全部纏められているようである。謙虚な先生は人目につかない、言わば縁の下の力となつて学生の薫育、指導によく尽された。夕方人気の無い学生実験室で独り明日の学生試験のためにこつこつ準備されている姿をよく見かけたものである。薬品庫や備品の整理もきちんとしておられた。判らない時は先生に尋ねるとその在所がすぐ判つた。古い薬品ビンや標本ビン備品などに墨で書かれた先生の綺麗な楷書の文字が今もなおあちらこちらで見受けられるのも懐しい。先生は非常に記帳面な人柄であつた。分析法の文献などもよく抜萃整理されておられた。或る成分の定量法について御教示を仰ぎに伺うと、それについて色々な方法を御自身の体験を含めて丁寧に指示され、それぞれの方法の正確さまで示され、その材料の場合の最も良い方法を指摘された。

静かな先生は千曲会の総会などでも余り目立つた発言などはされなかつたようであるが、しかし千曲会に尽されたお骨

折はひとかたならぬものがあつた、長い年月にわたり特に会員名簿の整理を一手に引き受けておられた、カードに記入したり、台帳を訂正したり、移動の絶えない会員名簿の整理は常に絶えざる努力が必要である。戦前は会員名簿が毎年発行されたものであるが、先生は原稿用紙を縦の方向に2枚貼り合せ長い用紙を作りこれを用いて名簿の第1頁より持前のきちんとした楷書で全部書かれた。これを毎年繰り返された。学校の授業や実験の合間にこれをやられることはなかなか容易なことではない。この先生の御努力には、ひそかに感服していたものである。昭和30年10月発行の今の名簿は千曲会支会強化の一策として支会別を本体とする名簿に組換えられた。この方針は理事会で割合に簡単に決められたことであるがその結果の良し悪しはともかくとして、実際にその仕事を受け持たれたのも須田先生であつた。卒業年次、クラス別に組んである4500名に余る会員の名簿を勤務先による支会別に組換えるのはそう簡単に来る片手間の仕事ではなく、非常に努力と忍耐が必要である。先生は蚕2回卒の大先輩であり、そのような仕事をやられるのは少し御苦勞過ぎるのように感じられた。しかし先生は不平めいたことを一言ももらさず、そんな態度を微塵もあらわさず黙々としてこの仕事をやつてのけられた。

先生は会合や会議では静かに黙して余り強い主張や発言をされることはほとんどなかつたようだ。しかし確かりした御意見や深いお考えと強いねばりを常に持

つておられた。

不言実行の地味な人、黙つて縁の下の力となつた静かな人、謙虚な親しみ深い人、それが須田圭二先生のお人柄であつた。

思い出の須田先生

同級の悪友 十九樂八峰

旧友にして新友、須田先生。先生と云う言葉では何んとなく野人の私にはピンと来ないが須田先生記念会発起人代表八木博士の通知で知つた。今日矢張り「先生だ」同級の友須田圭二アダ名を小須田オイ君そうだろうと云う方がビタリと来る。げに小作りの最高動物「人間小須田」は憎めない人物であつた。美男子で女性に好かれる顔形とはいかにヒキ目に見ても云えないがあれで案外色恋に夢中になつた時代があつたかも知れぬ。人は見かけによらぬからネ。冗談余談はさて置き、須田先生の在職40有余年化学室に明けて化学室に暮れたと云つた半生涯であつた訳だ地味な縁の下の力持ち的な化学者と申すのが一番適当な表現であろう。明治45年春4月、開校第2年の第2期生として入学した当時桑園開拓実習が毎日の作業であつたが彼の真面目な歛取りを今思い出すと矢張りその真面目が在職40余年を貫いた役人の姿であろう地味な化学実験室の須田先生の業績は幾多の蚕糸化学の結果を生み出し数多い博士を作つた原動力であつた事を確信する。駄言を重ねるのを避けて只一言余生を楽しく、面白く、且つ人に喜ばれる趣味道楽でもして過されよ。自愛されよ。デワ圭さん御気嫌よう。

時あたかも同級の知人小川保の訃報に接し一方退職友人のよい思い出と余生の永からん事を記しつつ、他方亡友に弔電を記すとは人生行路有情多感なる事をシミジミと感ずる。

昭和33年2月18日八峰附記

(5頁よりつづく)

リゴリしてあとは水を入れぬ事に決めた。

朝夕のお惣菜の買い使も坊ちやの役目で夕方豆腐屋へアゲ五枚買いにやらせられた時など帰り道でよい香りに誘われて、その一角を食い切つて見たら甘味くて止められず、全部の四角を食い切つて腹へ入れて了つた。祖母さんが

このアゲは皆四隅が切つて揃えた様がないがどうしたのだけ

と問い詰められて心ならずも窮余の策はウソを云う外なく

豆腐屋へ昨夜野鼠が侵入して食い荒したと云いました

とウソ八百弁解した。祖母はデロデロ

坊ちやの顔を見て黙つて小言を云わない、判つていたのであるが坊ちやに恥をかかさず花を持たせ、気を利かしたのだと思つて感謝した。八雄は後年60年の不作の間思い出しては祖母さんの偉大と寛大を称賛しウソを言わない事に決めた。

○——(⇒) 「田舎には珍しい小娘、熊ちや」

さて寄生木の八雄の通つた小学校は校長1人教師1人小使1人の村立で校長が3年4年教師の中根先生が1年2年の各受持ちで男女の共学であつたが皆百姓の子供で藁草履が多かつた。その女生徒の内に只一人熊ちやと云う小娘で夢二式の丸ポチャの小綺麗な女生が1人いた。10

才前後の年代でも美と不美は判るもの、恋でも色気でもない自然の懐かしい存在だつた。

押入のセンベイを持つて行つて3つ4つくれてやると喜んで他の友達に知らぬ様に

「坊ちやは親切な人だ、これから遊ぼうワシは坊ちやすき」

と云つてくれた。八雄は亀公、万公と共に熊ちやと遊ぶ事にしたが小学校4年を終えてからは寄り合う術もなく単なる熊ちやの淡い子供心のまぼろしの過去文で各々人生の行路から遠く南極と北極位の距離になつて了つた事はこの幼少寄生木の挿話として特筆してよい

(33年2月3日以下次号)

卓 上 独 語

鈴木教吾

32年の世界化繊生産高は、62億封度で、人絹アセテートが前年比3%の微なるに比し合成繊維は30%の大幅増加だ。日本・米・英・伊・白などの主要化繊国は、合繊を除けば生産過剰で価格が低落し、操短を実施しておるところが多い。それに従来主要販路だった後進輸入国が外貨事情から輸入を抑制しているのと、インド・台湾・イスラエルなどが、化繊製造に踏み切ったこともある。わが繊維界の高率操短もそうした本質的情勢変化に根ざしていることを忘れられない。

この場合直に見出されるのに、ランカシャの綿業だ。第一次大戦後、過剰設備の整理・安値売り・過度競争防止など、対策委員会を重ねて討議し尽されたが、業者は個々の利害に捉われて、協調が出来ず、実効が上らなかつたのである。その後日本綿業が大いに発展し、第二次戦後は印度その他の新興国が、輸入国から大量の輸出に転換して、ランカシャの販路を食つて了つた。昨年のわが国綿布輸出は、1千億68百万平方碼だったのに、かつての綿業王国英国のそれは、4億56百万碼に止まり、しかも毎年漸減の傾向にあるのだ。

高率操短下にあるわが繊維業界で、全く特異の存在だった生糸も、環境の悪化には勝てず、ボツボツ操短論が、ささやかれ出した。然し業者は先き安想念と換金急ぎの政府買上げを目標に、ぐんぐん生産のピッチを上げている。去る1月の生産数量は23,217俵(玉糸含む)と前年比23%も増加し、他の繊維界とは全く反対の現象を示している。しかも肝腎の輸出は、1—2月計5,531俵前年比実に44%の大激減だ。各種の対策委員会もあり、かずかずの立派な案も出来ている筈だ。ランカシャの或る時代そつくりだ。

政府買上げの規格引上げ発表と同時に、取引所の各限月は最低値を簡単に割つて了つた。不適格品の投売りが予想されたからだろう。然しそれで政府持込みが、減少するとは考えられない。あの程度の品位なら、現在の業者は、容易に確保して能率を上げ得るからである。それに業界唯一の頼りにしている輪網も、安値のオソファーが殆どだ。19万円では工賃もないと言う。期せずして、座繰糸に需要が集中する。一部では製品粗悪でキ

ャンセルされるのを待つ。など言つておるが現在の座繰糸の品位を知らない者の議論だ。

農林省が33年度の生糸需給予想を発表した。輸出5万3千俵、内地消費26万俵だ。資料の関係から過去の暦年度の数字を示そう。

	輸 出	内地消費
31年	75,366俵	232,404俵
32年	73,834	237,414

生糸年度の輸出は前記の如く今年の1—2月が激減しているのだから、32年の暦年よりは更に減ずることは確実だろう。それに主要需要地たる米国の在荷は、1万俵を突破(1月末)し、優に3カ月分の消費量を持つていることになる。下期には世界景気の好転を予想しても、1万俵近頃の輸出増は一考考えられまい。内地消費にしても、如何に輪網向きが増えても、2万俵の増加は無理だろう。

柔 道 雑 感

滝 口 昇

松田道場と長田道場の柔道試合を今日は全部観戦した。個人戦と勝抜き戦。緒戦から手に汗を握るほど、見ている方も気が気でないが、選手も道場の名誉にかけて負けられない必死の奮闘だった。

雪は窓に吹きほくり、マンジともえと狂い舞い、選手は若い血の燃ゆる激斗熱戦を展開した。御殿場勢は米兵も列して悪戦苦闘したことが、まことに微笑ましく心楽しいフンイキを試合場にただよわせてた。ことに女性ファンの応援も5,6名あり、「私も柔道をやりたいゾ、習おうかしら」と話している声も耳にした。松田勢は一般に体格が優れ、成績も良かったが、すこぶる明朗で態度も堂々たるものがあり敵ながら好感が持てたことは両道場将来のため大きなプラスであると思う。一方御殿場勢も思わぬ強敵を迎えたが、これも実に堂々取れても悔なき獅子奮迅の全力をつくし、ことに勝抜戦では段外者の先鋒、及び高木初段ごろまで松田勢危うしの感を抱かせていたが、2,3段に及び体力と修練の相違によつて遂に彼に名をなさしめた。

例の見学中の女性は「ことによると4段を3段にしているかな?」とつぶやいていたが、勿論そんなとはあり得ようもない。

ただ松田に比べて御殿場市はまだまだ

柔道熱が薄いのではなからうか。おそらく門弟数は松田の方が勝つていと思う。

ところで段級を一つ下げて試合に出る場合にぶつかったことも私はある。それは私のいた横浜の昭和特殊製鋼会社の剣道発会式試合であつた。相手は鶴見警察の大將3段某であるが、後で調べて驚いた。武徳会4段の猛者であることが判り大いに気を良くした。

さて今回は松田の須藤先生も御殿場の長田先生と互いに審判役を譲り合う美しい場面も見られ、公平無私むしる自軍に厳しく相手の選手に寛大であるように思われ、私は心中感嘆した次第である。

スポーツの審判は仲々デリケート(微妙)である。私も剣道だけは随分やらせられた。相撲、スケート、テニス、ピンポン、ランニング等も審判したことはあるが、柔剣道は仲々六ヶ敷い不十分でもとればとれる審判は神様にならなくてはいいけない。野球の審判等もストライク、アウトが微妙ではないだろうか?何れにしても御殿場市民がもつと武道を認識して柔剣道を主体として銃剣術、弓道、なぎなた迄発展、繁榮せしむる事を希望してやまない。老若男女が武道を励むことその修練をなすことが身心の練磨である以外に楽しい趣味であり、人生、処生への一つの指針となる場合が多い。同好の士はグループを作り、休日及び農閑期を捉えて会合し練磨することを吾々は念願する。悪趣味ではなく、趣味に費す時間を持つ人生でないならば無意味であると思ふ。仕事に興味の人が往々あるが仕事の中に考える時間を持たねばならない。何れにしても趣味は同時にダイゴであり楽天国である。原の白隠禪師も云う如く、死して地獄極楽なく生きている時の楽しみ喜び、嬉しさ愉快の心境が極楽であり悲苦憂悶が地獄であると説いた筈だ。極楽世界即天国に遊ぶ手段方法こそ趣味に生きる時、地獄を脱却した時、宗教に信者が信仰する時であり、その境地が一つの悟りであると私は思う。此の悟りを何回も何千何万回も経て登り進りて究極が富士の頂上の如く人生最高の崇高無限の大悟であり、その道程は精進一路であると信じている。

湯 原 理 三 氏 イ ラ ン へ

蚕種協同組合千曲社勤務の湯原理三氏(蚕36)はこの度イラン政府よりの招聘によりイラン国へおもむき現地にて2ケ年間養蚕及び製糸技術の指導をすることになり、去る1月30日の午後8時フランス航空にて羽田空港を出発しました。

会員の近況

遠友会(Entomo-Kai)仕末記

暖冬異変の暖かな正月3日、恒例の遠友会の新年会が、上田のこはまや支店で開かれました。八木先生始め生物学教室出身者にとっては、七夕様と同様1年に1回顔を会わせて談笑できる機会なので、遠く九州、綾部、沼田、ガマの油の筑波山のふもとから、又雪の深い大町からと、定刻の1時には忘れることの出来ない顔々が集まり、焼とりが始まりその名もいかめしい山賊焼に西部劇の主人公気取でかじりつき、鍋をつつく頃ともなれば話ははずんでお猿の“どこか”のような真赤な顔、1滴も飲まなかつたようなケロリとした顔に、八木先生、小山先生のノドも開かれました。



この日はるばる綾部から平坂さんが京都弁の、出来たてのホヤホヤの美しい奥様をご同伴して下さり、お正月のひとときをご一緒に過ごすことができ、とても楽しい1日で、独身者にとってはちよびり妬け、少々うらやましく、来年こそは、とひそかに決心しました。これからは結婚した方々は必ず同伴という事になり、来年は誰がお2人連れか、お楽しみという所です。

最後に全員記念撮影し、来年の3日を約してお別れしました。(小松)
出席者 八木先生、小山先生、小池屋、平坂忠雄、チズ子夫人、福島融、金井節博、降旗剛寛、竹内千枝子、蒲生卓磨、小松玲子

在阪若手化学卒業生

こん談会

母校より北条先生が来阪されたのを機に若い連中が集まろうということになって2日前に急に連絡をとった。

1月19日正午大阪南の会社街にある食

堂に集合した。遠く倉敷、泉大津よりも出席したりして出席率95%という好成绩であつた。先づ自己紹介から始まり仕事や会社の実情や仕事の苦心談を披露その後〇〇会社には君がいるのか、と旧知の如く親しくなり、もつと君の所の織物仕上や染色をうまくやれ等と注文や激励し合つていた。この会は先生からの注文で特に酒なして如何にしてお互に力を合せてのびて行くかを真剣に語り合う様にとのことだが予期以上の成果を収めた。その後折から休日でごつたがえした心斎橋を歩き、音楽喫茶でも一時間以上ねばつて仕事や研究上の相談が続けられた。母校より遠いので皆がより一層連絡を密にして協力すべきであるということになり今後は先づ在阪の若い化学卒業生に広く呼びかけて毎年1月の第2又は第3日曜および夏適当な時期に定例的に会合することを決定した。(管原)

- 出席者 母校 北条先生
- | | | | |
|-------|----|----|-----|
| 深喜毛 | 新海 | 恒久 | 化大3 |
| 共楽油 | 金子 | 隆一 | 化大4 |
| 倉敷レース | 白井 | 英男 | 化大4 |
| 五光染 | 三浦 | 秀夫 | 化大4 |
| 東洋紡 | 林部 | 良彦 | 化大5 |
| 日東電気 | 内藤 | 茂美 | 化大5 |
| 高分子化 | 林 | 貞男 | 化大5 |
| 長瀬産業 | 管 | 原力 | 化大5 |

九 化 会

卒業後7年、ラッキーセブンの正月2日、九化会をいつものように、いつもの所、但馬軒で開いた。熊で名高い旭川の野村(国第パルプ)からサツマイモ焼酎に漬つているという九州八代の関田(興人)を両極に集つた面々次のごとし。小田中(倉敷レ) 花岡(興人) 大屋(日本合織) 小山(日本オイル) 工藤(信越放送) 三石、清水(母校)等々、繊維工業不振が幸いして、至極のんびり飲みつ、語りつ、歌いつ過した。昨年はハイラーテンしたものが13人もあつたが、この日は当日見合をする者を含めてほとんどが独身、関田の深刻な恋物語を聞きつ、彼の元気な姿が印象的だ。数年前病氣療養した大屋も元気に飲み、工藤アナの美声にきまれば、信用おけるのかおけないのかわからないカメラマンのシャッターの音で会を閉じた。山陽路にて静養している山崎の1日も早く全快されるよう、また坂下の重傷の癒えるよう心から祈る。

小西高雄君の帰国歓迎会

先にヨーロッパの繊維工業視察より帰朝された。大和紡の小西君の歓迎会が、大阪在住の化学科一回生の間で、1月14日の夕大阪は南区玉屋町なる来山閣にて催された。一同こつてりした支那料理と小西君の濃厚なる話に耳をかたむけ、引続きタフに飛び廻つて撮つてきた。各地の8ミリカラーフィルム2000呎に及ぶ見事な風景絵巻に心をうばわれ時のたつとも忘れた。

途中隣の部屋にいたよどれ芸者がイカサマ写真と間違つて乱入して皆を笑わせた。

十時すぎ解散したが帰途各方面ごとに組になつて適当にしけこみ終電迄杯を傾けていた様である。当日の出席者は小西、神大奥教授、を始め一回生の常連の面々、高分子化学の江口、花王石ケンの丸田、新日本電気の佐藤、極東ゴムの半勢、尾崎工業の西田、母校の北条である。



蚕 緑 会 便 り

正月2日午後5時より上田市海野町信州ハムに於て第9回目の蚕緑会(蚕36回)の新年会を開催しました。集つた者は18名の多数に及び実に有意義な半日を過ごす事が出来ました。

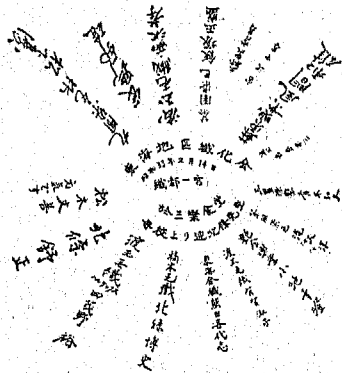
続いて1月22日午後6時より戸倉温泉高津屋旅館に於て別記の如く湯原氏がイランへ赴かれるのでその壮行会を開催しました。湯原氏の壮途を祝つて近在よりかけつけた者実に19名、祝電を打つたり、祝福の電話をかけたたり、又激励の便りをよこしたりした者等数多く湯原氏の壮途を祝するにふさわしく、彼の健康と成果を心の底よりお祈りして夜のふけるのも忘れて語り合いました。

尚1月1日付にて蚕緑会々員の名簿を作製する予定でありましたが、都合により4月1日付に変更致しますから御了承下さい。

(西山)

在一宮纖維化学 卒業生のこん談会

繊維都市一ノ宮周辺の同窓生は毎年増加する傾向にあり、この地区におけるわれわれの結束は単にわれわれ自身のためのみならず母校の発展と云う面においても不可欠のものと感じ、喝望していたものであるが、今回母校より北条先生を迎え、取敢えず繊維卒業生だけでも集る事になり東海合織熊田氏の統合のもと2月14日、一宮市三楽ビルに参集した。前日に連絡がゆくとという緊急な集りで、行届かなかつた恨みはあるが遠くは知多郡の武豊町から又それぞれの方々が多忙中に拘らず多くの参加をみた事はわれわれ上田の同窓生として非常に意を強くした次第である。会は午後7時に始められ一つのテーブルを囲みそれぞれが自己紹介の後に乾杯、食事に移つた。初対面が多く初めのぎこちない空気も飲む程語る程にうちとけ学友の消息思い出、仕事の状況等々……………



そのうち「東京の××で私の社の即売所がありますから上京の際には是非お立ち寄り下さいまして〇〇〇Texをどうぞ」などと云うPRも飛び出し場内を爆笑に包んだり、又最近の合織、水の軟化の問題等専門的な討議も飛び出して談論風発それぞれが仕事熱心なところをみせて話題が尽きず時の経つのを忘れて話し合い終電に名残りを惜しみ、今後熊田氏を中心として年に2回例会会を持つ事を約して散会した。(学化1 松下優)

松尾卓見助教授(蚕28回)

農学博士に

松尾助教授(微生物・植物病理担当)は過去10数年にわたる研究の成果である「桑芽枯病に関する研究」を学位請求論文として京大農学部提出されていたが、去る2月27日同学教授会を通過した旨通知があつた。

母校だより

◇昭和33年度入学志願者について

入学願書の受け付けを去る2月26日に締切つたが、その志願者数は405名で去年に比べれば2割余の減少である。東京、京都所在の繊維学部が相変わらず志願者の多いところをみると青年が都会に憧れつつあることや、地方綜合大学の末席に位置する母校が魅力に乏しいことがうがわれる。然し志願者の7割は北海道から九州に至る他都道府県人であるようなよいところもある。

◇信州大学科学教育研究室の修了式挙行小、中、高校教員の再教育と理科教育や科学教育の昂揚を目的とする科学教育

研究室の修了式が去る3月1日母校会議室で室長である伊藤学部長や主事の田口教授の挨拶に県係官、八木教授の祝辞などがあつて、おごそかにおこなわれた。修了者は研究熱心な15名の先生方であつた。

◇昭和32年度卒業式について

母校では卒業式を例年の通り3月10日(月)午前10時からおこなつた。

◇入学試験入学式について

入学試験が本科3月23日から3日間、別科同月26日の1日間にこなわれ、入学式は4月12日(土)に挙行される予定である。

須田圭二先生退官記念資金受領報告 (2月5日現在)

金 5,000円 安田 けい(旧教)
金 1,000円 星野 拓弘(糸16)

特別活動資金受領報告 (3月5日現在)

金 600円 酒井 嘉義(蚕17)



本会日誌

2月17日 全国蚕糸主任官会議が東京で開催されたのを機会に東京支会の有志の会合を開く、本部から竹田先生出席さる。

3月2日 更埴支会総会 上山田温泉麗美旅館で開催さる。本部から若林事務主任出席

千曲会員動静 (1958.1.31現在)

188	小松 昭威	学糸5	近藤工業KK (春日井市高藏寺町)
115→208	田中 容子	糸別5	大阪市東住吉区西今川町3丁目55光楽苑内
181	山田 斧市	糸13	恵南産機KK (岐阜県恵那郡岩村町)
248	白 健 濟	蚕17	密陽高等農蚕学校々監(韓国慶尚南道密陽郡密陽邑間二洞)
248	朴 炳 積	蚕17	中央農業技術院蚕糸科長(韓国京畿道水原邑西屯洞)
187	川 合 清	蚕13	昭和22年3月12日死亡
160→103	小山 俊吾	糸10	自宅、小諸市相生町 電162
182→86	金沢 哲雄	蚕別4	厚木編織KK, 海老名工場(神奈川県高座郡海老名町大谷3905)
188→182	菊川 武	学化3	東洋レイヨン・三島工場(静岡県三島市)
190	春原 昌行	学紡4	衣浦紡績KK, 山方工場(愛知県半田市東洋町)
110→41	猪坂 哲郎	紡22	新興絹業KK, 代表取締役(群馬県伊勢崎市宮前町電20 or509)
50	目崎 武美	蚕26	群馬県農政蚕糸課(住)前橋市曲輪町57
54	篠原 宏	蚕38	(勤)前通り, (住)熊谷市石原巴町
83	磯野 良知	蚕2	西八代郡下部町教育町(山梨県西八代郡下部町)
88	清水 彰	蚕28	工業技術庁繊維工業試験所通産技官(横浜市神奈川区沢渡4)
44→188	小林 正治	学蚕3	江南蚕業指導所(江南市古知野町)
191	田村 義隆	化6	(勤)前通り, (住)知多郡選ヶ丘25)
196	山本三六郎	蚕10	三興製紙KK (中島郡祖父江町)
208	田中 武治	化6	(勤)前通り, (住)大阪市東淀川区下新庄2丁目公園住宅38の1
61	雨宮 金雄	蚕17	東京都北多摩摩出納事務所長(東京都府中市926)
237→83	岩佐 隆次	糸29	群是製糸・飯野工場(山梨県中巨摩郡白根町飯野)
162→171	平沢和司男	糸24	長野県蘭検定所岡谷支所長(岡谷市今井370)
95	松井 忠計	学糸1	中魚沼養蚕協連退職、自宅十日町市田中丁
60→81	吉川 啓人	糸25	東京都大田区池上徳持町40の4
75	萩原 延衛	学蚕3	三葉酒造KK研究科(川崎工場内)(品川区北品川御殿山)

94	花村 治郎	蚕38	新潟県庁農林部蚕糸課(新潟市 学校町通り1)	202(中村)石井 勝	蚕36	製糸所大樋出張所 (勤)大津家庭裁縫所(大津市四 ノ宮町)(住)滋賀県近江八幡市 中村町696
93	芝田 光男	化7	柏崎保健所(柏崎市比角)	43	桑原 宣治	(勤)首藤製糸KK・前橋出張所 (前橋市小柳町31)(住)群馬県 吾妻郡中之条町953
177	東 正雄	紡20	岸和田市春木町1173	182→45	島田 仁治	(勤)片倉工業KK・富岡製糸所 伊勢崎出張所(伊勢崎市南町3の 58)
191	田中 貢	紡28	日清紡針崎工場(岡崎市針崎町)	148	小林 義雄	(勤)須坂市常盤中学校 (住)須坂市馬場町1123
177	樋田 久吉	蚕36	岐阜県恵那郡岩村町富田224(勤 務先中津川市阿木中学校)	241→179	滝沢 幸彦	(勤)神楽生糸KK・岐阜乾繭場 (岐阜市坂井町) (住)岐阜市坂井町1の17)
192	高橋 国清	学紡4	林紡績KK(一ノ宮市八幡通6の1)	171→159	丸山 広	(勤)信越放送営業局サービスマ ーション(長野市緑町) (住)長野市東之門町
188	小池 幸澄	学化4	鮎金興業KK(愛知県尾西市)	78→24	氷野 孝之	(勤)NHK弘前放送局(青森県 弘前市) (住)新潟県高田市西城町4の82
190	清水 一寛	学紡5	中部旭紡績KK(名古屋市千種 区猪高町)	95	柳沢 一造	(勤)株式会社丸美屋商会(東京 都千代田区神田須田町1の10) (住)東京都杉並区宮町249
95→34	依田 弘夫	蚕31	日東紡績KK福島工場(福島市 郷ノ目東1)	82(依田)丸山雄幸		(勤)信州運送株式会社(上田市 原町5756) (勤)宮城県桃生牡蠣産業指導所 (石巻市門脇村境里出張所内) (住)石巻市南魚野山49
49→34	富原 豊	蚕32	群是製糸KK本宮工場(福島県 本宮町)	113	小山 範雄	(勤)小県郡塩田町立中塩田小学 校(小県郡塩田町)
64	奥村 忠次	蚕33	協同組合全国蚕種研究会参事 (千代田区有楽町1の7蚕糸会 館内(住)前通り)	134	今井 貞江	旧姓羽田(住)小県郡和村西深井 農林省横浜生糸検査所(横浜市 中区北神通5の57) (住)横浜市港北区南綱島町705
210	古川 元彦	学紡5	日本化学繊維協会大阪事務局 (大阪市東区瓦町5丁目39)	216→88	田中 重臣	勤務先前通り(住)離米郡安中町 大字安中2951 (住)東京都新宿区諏訪町63
31→63	宇治 義春	紡7	日東紡績KK本社スフ絹紡課 (東京都中央区入重洲口6の1日 東紡ビル内)	42	荻原 行雄	糸20 (住)社名変更 惠南蚕糸KK(所在地前通り)
76→34	藤井富美男	紡8	日東紡績KK富久山工場長(郡 山市外富久山町)	177→64	小畑 稔	糸32 社名変更 惠南蚕糸KK(所在地前通り)
41	上野 正美	蚕31	片倉工業富岡工場原料課(富岡 市)(住)富岡市小沢1583	183	宮本 聡一	学系1
32	塩 理	蚕31	福島県蚕業試験場(原町市桜井)	180	西尾 精二	学系36
117→74	那須野博人	糸30	琴光堂楽器店東京支店(東京都 渋谷区神宮通2の2)	180	三石 三郎	学系1
51	新井 輝昭	蚕別4	折原産蚕協内(埼玉県大里郡 寄居町立原)	181	山田 隆市	学系13
94→73	中島 弘	蚕35	井波経編興業KK東京営業所(中 央区日本橋浜町2の22浜町ビル) (勤)前通り(住)新潟県東頸郡松 代町松代		和田 定男	学系4
95	山内 一次	蚕23	鐘紡KK相馬工場(相馬市中村町)	205→201	伊藤 智夫	学化4
36→32	田代 毅	糸27	同上退社(東京在住)	140→154	玉木 清子	糸別2
32	鉛木 忠爾	蚕別4	沼田農政事務所長(沼田市)	184→75	橋本 武光	蚕7
41	岩根 謙	蚕11	岩手県産蚕連(盛岡市岩船町)	196→226	米山 達雄	糸33後
26	若井 弘	糸12	神楽生糸KK研究課(綾部市西 町3)	100→235	寺井 子藏	紡12
38→221	宮崎 貞吉	糸38	中央紡績KK職員寮(熊本市健 軍町)	244	塩入 国治	糸13
245	和田 良央	学化3	退社、大阪市南区坂町19宮本方 新町南中学校(上水内郡信州新町)	167	水城 孝男	蚕2
207	北村 忠久	学化1	興和紡績KK・松阪工場(松阪 市垣鼻864)	223→68	酒井 嘉美	蚕17
141→146	西沢 一清	蚕38	(社名変更)株式会社電通総務局 給与課(中央区銀座7ノ1) 自宅 埼玉県小川町			
189→198	佐々木利為	紡29	文一を丈量と改名、亀山製糸KK 埼玉出張所(埼玉県東松山市 大字下野木)			
68	清水 衛敏	蚕2	柳沢を早川と改姓、東京都墨田 区石原町1の3			
47→55	戸田 峻三	糸22	熊本県庁蚕糸課(熊本市行幸町19)			
198→52	片山 丈量	蚕29	鐘紡松本工場(松本市島内区) 死亡			
121→75	早川 房子	教7	高知県繭検定所(高知市旭町)			
243	深 迫 明	蚕16	大東紡績名古屋工場(名古屋 市北区織部町)			
162	西山 繁	学蚕4	昭和32年3月19日死亡			
54	須田 今藏	蚕3	自営 鴻巣市石橋町2,474の2			
233	都筑南海夫	糸38	中部化織KK大府工場(愛知県 知多郡大府町)			
185	今井 邦夫	紡27	片倉本社・製糸課長(中央区京 橋3の2片倉ビル内)			
52	小 高 喬	蚕2	安筑桔梗ヶ原高俊(東筑摩郡塩 尻町)			
56	真木 元	蚕16	南佐久郡野沢町			
186	碓 井 実	学紡5	(住)渋谷区幡ヶ谷町2の296 安藤方			
241→74	中村 守太	糸17	北佐久地方事務所(岩村田浅間町)			
166→164	川合希太郎	糸27	東京都文京区宮下町23			
107	須江弁三郎	農3	岩手県上閉伊郡大槌町片倉高田			
70	田中 三夫	蚕3				
107→102	岩田 正人	蚕32				
144→73	中沢 周藏	糸1				
24	井出 昭三	蚕36				

編 集 後 記

本号より卒業論文抄録を掲載致します。何卒いにし
えの在学時代の事をなつかしんだり、又参考になさつ
て大いに利用されるようお願い致します。
編集部員一同元氣にて皆様の期待にそいうるよう念
じておりますから、御意見及び記事等の原稿或は写真
等どしどしお寄せ下さるようお願い致します。(西山)

編集理事	田口 亮平
編集総務	小山 長雄
部 員	白井 美明 一之瀬 匡 興
	美齊津 利正 清 水 周
	柳沢 幸男 西山 久雄